

公共施設再編案作成手順

◇再編コンセプトについて

- 公共施設の種類ごとの配置方針(R01策定)に基づき、施設種類・圏域ごとに3分類する。
 - ①同一圏域内でサービス機能の重複(同一種類の施設が複数存在)が見られる施設種類
 - ②サービス機能の重複はなく、利用状況に応じた規模に見直す施設種類
 - ③配置方針ですでに事業方針(存続・廃止)を定めている施設種類

施設種類	圏域Ⅰ(市)					圏域Ⅱ(区)					圏域Ⅲ(中学校区)				
	再編の基本的考え方	分類	事業評価 適正数	利用度	更新時期 老朽度	再編の基本的考え方	分類	事業評価 適正数	利用度	更新時期 老朽度	再編の基本的考え方	分類	事業評価 適正数	利用度	更新時期 老朽度
ホール施設	圏域内での集約を検討	①	○	○	○	圏域内での集約を検討	①	○	○	○	-	-	-	-	-
コミュニティ施設	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	原則地域に1施設を めざし、集約化	①	○	○	-
美術館	両館を維持	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
博物館・資料館	歴史博物館は現状を維持	③	-	-	-	圏域内で多機能化・複合化	③	-	-	-	圏域内で多機能化・複合化	③	-	-	-
文化財的施設	【圏域設定なし】施設は保存・活用	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
図書館	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	(地区図書館)利用状況に応じ運営方法の見直し	②	○	○	-
											(地区図書室)利用状況に応じソフト事業への転換や地域移管等を検討	②	○	○	-
スポーツ施設	(国際規格取得など高い機能を有する施設)全施設共通の配置方針に反しない限り維持	①	○	○	○	(圏域Ⅰ、Ⅲの定義に該当しない施設)類似用途の施設が区内・隣接区に複数存在し、かつ、低利用・老朽化などの課題がある場合は集約。利用実態に応じ、コミュニティ系施設や学校体育施設との多機能化・複合化	①	○	○	○	(利用主体が地域住民)利用実態に応じ、コミュニティ系施設や学校体育施設との多機能化・複合化	③	-	○	-
ひまわりクラブ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	小学校の余裕教室発生や更新時に順次複合化	③	-	○	-
子育て支援施設①(児童館)	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	-	-	-	-	-	新設・更新せず小学校など地域の既存施設への機能移転	③	-	○	-
子育て支援施設②(子育て支援センター)	-	-	-	-	-	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	維持	③	-	○	-
高齢者福祉施設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	老人憩の家：新設・更新せず老朽化や利用率が著しく低い施設は廃止、地域の拠点施設へ機能移転	③	-	○	-
保健福祉施設	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	維持(機能重複がないため)	③	-	-	-	老朽化の進んだ施設や利用率の低い施設は、コミュニティ系施設等を活用した健診機能の確保や、多機能化・複合化	②	○	○	-
幼稚園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5園に再編(沼垂、新津第一、新津第三、結、西を存続予定)、センター的役割を果たす幼稚園へ集約	③	-	○	-
保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	民営化を推進し現在の施設の半数程度を目標に集約	③	-	○	-
小中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	適正規模の考え方に基づき小規模校は集約化・複合化	②	○	○	-
公設デイサービスセンター	-	-	-	-	-	廃止・民営化	③	-	-	-	-	-	-	-	-
公営住宅	【圏域設定なし】継続管理または建替を前提としない当面管理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
斎場	ピーク時(R22)以降集約化	③	-	-	-	ピーク時(R22)以降集約化	③	-	-	-	-	-	-	-	-

◇施設評価及び再編案作成手順

